

卒業生へ 葉プレゼント

今年も卒業の季節になりました。

町内の小中学校の卒業生は、228名です。更女のメンバーが2～3名の班に分かれ、各学校にお邪魔しました。

会の主な活動についてお知らせすること、葉をプレゼントすることが目的です。子どもたちは、更生保護女性会についての話を熱心に聞いてくれました。葉は、一人一人に手渡すことができました。

「葉って『道しるべ』なんだ」

「やっぱり挨拶って大事だね」

葉に書かれている言葉の違いには、すぐに気づいたようでした。お互いに見せ合いながらの笑顔が印象的でした。

夢・希望・勇気……を、体いっぱい詰め込んで、健やかに成長していったほしいものです。

(文責：伊藤)



住民活動ふれあい祭り参加

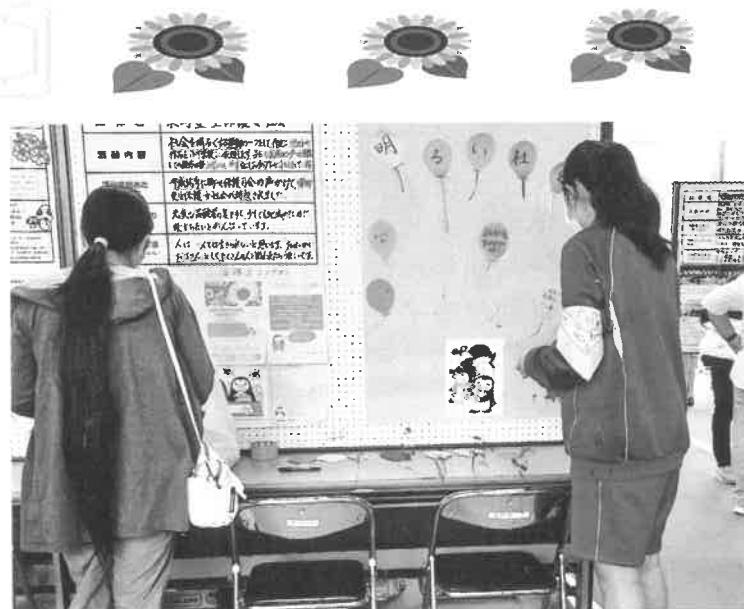
10月20日(日)のふれあい祭りでは、多くの住民活動が紹介されました。

更女会では例年、パネルの展示とバザーを行っています。

中学生ボランティアの子たちが一生懸命呼びかけを行って、パネルには皆さんに書いていただいた「明るい社会づくり」のためのメッセージがどんどん貼られていきました。

また、バザーでは、自宅で収穫した毎年好評の栗や手作りの野菜、手芸品生活用品などを並べて販売しました。

「いつも楽しみ」と言って参加してくださる方も多く、このような活動を通して、多くの方に関心を持っていただけたことを嬉しく思いました。(文責：塩田)



一緒に活動しませんか

～ 会員募集中 ～

栄町更女会は、一緒に活動して下さる会員を募集しています。

問い合わせ先

TEL 95-0472 (田邊)



編集後記

栄町更生保護女性会の活動の一つに『読み聞かせ』活動があります。今年度も関係諸機関・諸団体のご協力で、活動の場を広げることができました。これからも「明るい社会づくり」のために、今できるベストな活動を模索していきたいと思っています。ご協力をよろしくお願いします。

(文責：塩田)



更女さかえ

令和7年3月31日

第21号

発行 栄町更生保護女性会

やりたいこと、やるべきこと



会長 田邊 みさを

昨年10月に、長野県松本市で開催された関東地方更生保護大会に参加しました。

その時の講演でITエバンジェリストである若宮正子氏のお話を聴きました。58歳からパソコンを学び、作成したゲームアプリが米国のアップル社に認められて米国に招かれたり、国連で基調講演をしたりと、世界で活躍されています。現在も、高齢社会におけるデジタル活用支援のために活動されているそうです。

若宮氏は、講演の最後に「高齢者は積極的に異世代と交流し、自分の頭で考え、心身ともに自立する。とにかくバットを振ってみる。面白い・興味を持つことが大切である。どんな時代でも逞しく生きる力と叡智と柔軟性があれば、素晴らしい未来が待っている」と、結ばれました。

私の知り合いに、退職後、陶芸の作品作りを生きがいとしている人がいます。陶芸の楽しさを生き生きと語る姿はとても素敵でした。

若宮氏が言うように、人が生きていく上で、いろいろなことに興味を持って取り組むことができれば、どれだけ豊かな人生になることでしょうか。そしてもう一つ、自分にとって「やるべきことがあること」も幸せなのではないかと、私は思います。更女の活動である読み聞かせや葉作りなど、自分たちも楽しみながら、ほんの少しでも地域の役に立つことができれば、とてもうれしいです。

コロナ禍で中断していた卒業生に葉を手渡しでプレゼントすることも、今年度、小学校3校で再開することができました。絵本の読み聞かせも続けていく予定です。できるだけ多くの会員の皆様に参加していただきたいと思います。よろしくお願いします。

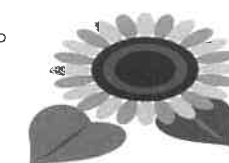
保護観察所の所長さんや観察官の方々も「楽しく活動してほしい」とよく言われます。これからも、楽しく充実した活動を目ざして頑張りましょう。

『社会を明るくする運動』千葉県作文コンテスト 『入選おめでとう』 間野 葵さん

『社会を明るくする運動』千葉県作文コンテストで、栄町立安食台小学校5年間野葵さんの作文が、見事に入選しました。

日常の活動を通して学んだことを、しっかり文章に表現していました。過日、栄町長への報告を行いました。

作文は次ページに掲載しています。



『社会を明るくする運動』 千葉県作文コンテスト入賞作品の紹介

法務省では「社会を明るくする運動」の一環として、小中学生を対象に作文コンテストを実施しています。犯罪や非行などに関して、日ごろ考えていることや体験したことを書くことで、犯罪や非行のない明るい社会を築こうという、この運動への理解を深めてもらうことが目的です。今年も町内の多くの小中学生が参加してくれました。

その中で「入選」した安食台小学校5年の間野葵さんの作文をご紹介します。

BMXから学んだこと

安食台小学校
5年1組 間野 葵

ぼくは今、BMXというスポーツに熱中している。オリンピック競技になってはいるが、まだまだ知名度は低い。

BMXの練習をするパークでは、いくつかのルールが存在する。

まず一つ目は、「挨拶」である。当たり前と思うかもしれないが、これが意外と難しい。パークには怖そうなお兄さん、奇抜な髪型のお兄さん、筋肉もりもりなお兄さんなど、普段生活をしていて、町では見かけない人たちが多く。そんな中、緊張しているぼくを見て、

「こんにちは！！」

と、元気に声を掛けてくれるお兄さんが多かった。その一言でぼくはとても嬉しい気持ちになった。そして、怖そうなお兄さんたちは、やさしくてカッコいいお兄さんへと変身した。挨拶の力のすごさを知ったぼくは、自分から積極的に挨拶をするようになった。それからどんどん仲良くなり、今では仲間が増えて、BMXがもっと楽しくなった。

二つ目は、「順番を守ること」である。BMXのパークでは、セクションという斜面や曲面を利用して、ジャンプするコーナーがたくさんある。そのため死角になってしまい、ゆずり合いながら走らないとけがをしてしまう。みんなが同じ事を気持ち良くするためには、思いやりを持って、周りをよく見る事が大切ということがわかる。まだパークに慣れていない子がコースを横切り、ヒヤッとする場面もある。そんな時は、やさしいお兄さんたちから教わったように、ぼくもやさしくルールの大切さを伝えるようにしている。

三つ目は、「他のライダーと交流すること」である。BMXは個人競技だが、自分の技をレベルアップするためには、仲間が必要だと思う。難しい技に挑戦するために、何度も転んでは失敗を繰り返す。全然うまくいかない時に、仲間たちが声を掛けてくれたり、背中を叩いて励ましてくれる。その言葉でまたやる気になって、「次こそは決めてやろう」と、強く思うことができる。一人で練習していた時よりもずっと上手くなったと思う。そして、練習していた技が初めて決まった瞬間

「よっしゃー！！」

と、仲間が喜んで叫んでいる。その姿を見ると、がんばって良かったと嬉しくなった。だから仲間が苦戦している姿を見たときは、全力で応援することで、一緒に上手くなっている気がする。仲間のおかげで、自信を持つことと、失敗してもあきらめない心を学ぶことができた。

ぼくは何かを一生懸命がんばっている人や、がんばっている人を応援する気持ちがあれば、やさしい世界になると思っています。BMXを通して学んだことを、ぼくの知っている身近な社会から広げていきたいです。挨拶から始めて、色々な考え方の人がいることを知り、『やさしい気持ち』を忘れないことが大切だと思います。自分を大切に、そして自分の周りの人を大切にできる人になりたいです。

読み聞かせ活動

絵本『おしえてくもくん』～プライベートゾーンを学ぶ～

2023年度より、子育て包括支援センター（現在はこども家庭センター）の出張講座「はっぴいルーム」にて、私たち栄町更生保護女性会は連携活動をしています。

「はっぴいルーム」は、町内在住の未就学児童の皆さんとその保護者の方々を対象に、毎回いろいろなテーマを柱にした集いの場です。ご夫婦とお子さんで参加されている方もいます。職員の方々が工夫を凝らした内容で、活発な展開をしている子育て支援事業の一つです。

2024年度は、私たち栄町更生保護女性会で薦めている絵本『おしえてくもくん』の読み聞かせをしました。0歳～3歳と幅広い年齢の子たちの参加があり、保護者の方々の感想を直接お聞きすることができて、私たちにとっても毎回学びがあります。この活動の継続と、さらに町内幼稚園、保育園、そして小学校低学年と、対象を広げ、絵本の読み聞かせ活動を取り組み続けていきたいと思っています。

『おしえてくもくん』は「プライベートゾーンを学ぶ」という内容で、日常で起こりうることの対応がテーマの絵本です。このような知識が、子どもたち自身が、自分の身を守る行動に繋がってくれることを願い、これからも読み聞かせ活動を進めてまいります。

（文責：石川）

読み聞かせ活動を行って

竜角寺台コミュニティホールで「おしえてくもくん～プライベートゾーンってなあに？」の読み聞かせをしました。参加したのは、0歳～3歳の子どもたちと保護者の方です。

子どもたちは、和やかな雰囲気の中で、話を聞いたり遊んだりしていました。保護者の方は、しっかり真剣な様子で聞いてくれました。

読み聞かせの後の話し合いでは、日頃の子育ての悩みや、それぞれ工夫している事などを話してくれました。

父親の方も参加していました。父親と母親の両方が、どちらも前向きに子育てしている姿が素敵だなと思いました。

プライベートゾーンに関係すること、大人が意識することで、子どもたちへの対応が変わってきます。親の意識が子どもの心を育てていくのだと感じました。（文責：飯田）

葉作り ～ 新春懇親会 ～

1月28日（火）に多数の参加者で葉作りと新春懇親会を開催することができました。

この葉は、私たち更生保護女性会の会員が、一枚一枚心を込めて作り、町内の小中学校の卒業生に手渡します。

葉には、その年の干支のイラストと思いが一言添えてあります。葉に込めた思いが卒業生に伝わり、はなむけとなることを祈っています。

その後は、新春懇親会です。昼食と恒例のビンゴゲームで楽しみました。ビンゴゲームにはささやかですが、持ち寄りの景品も用意されました。ゲーム中「リーチ」と、とても元気な声が飛び交い、賑やかな楽しい一時を過ごすことができました。

これからも、会員みなさんと楽しく活動が続けていきたいと思っています。（文責：浮嶋）